今月のテーマ「11月から12月までの勉強」

「点を取る勉強」への切り替え 残り日数から逆算して、やることを決めよう

朝晩の冷え込みが増し、受験生活も後半戦に入りました。志望校の候補が見えてきた今、次に取り組むのは「合格点を取るための勉強」です。
体調に気をつけながら、毎日を過ごせていますか。今回は、冬休みに入る前までの約２か月間を、得点に結びつけるための勉強法を、過去問の使い方から生活リズムまで具体的に紹介します。



志望校の候補が見えてきたこの時期、気持ちはすでに次の段階へ進み始めているはずです。11月から12月にかけては、新しいことを増やす勉強から、持っている力を点数に変える勉強へと切り替わっていきます。

手を広げて安心するのは、もう終わりにしましょう。必要なのは、入試で出る形に合わせて練習し、取りこぼしをひとつずつ減らしていくことです。

まず、カレンダーで引き算をする

入試日から逆算して、残りの日数を数えてみてください。次に、日曜日や学校行事、定期テストの期間を引いていきます。実際に勉強へ使える日が、思っていたより少ないことに気づくでしょう。

これは皆さんをあせらすための計算ではありません。「時間が足りない」という漠然とした不安を「あと何日で何をするか」という具体的な目標に置き換えるための作業です。

過去問は「腕試し」ではなく「下見」

過去問は、点数を競うためのものではありません。志望校がどんな問題を、どんな順番で、どれだけの時間で出してくるのかを実際に体験しながら確かめる「下見」です。

初めて解くときは、点数よりも自分の様子を観察しましょう。どの大問で時間を使い過ぎたか、何問目から焦り始めたか、解けない問題に出会ったときどう動いたか。解答用紙の端に書き留めておくと、あとで必ず役に立ちます。

２回目からは本番と同じ開始時刻、同じ制限時間で解きます。解く順番を決めておくことも大切です。難しい問題で立ち止まるより、取れる問題を先に確実に取るほうが、合計点は伸びます。

ミスを分類してみる

模試や過去問で間違えた問題は、ただ解き直すだけでは足りません。「なぜ『×（バツ）』だったのか」を分けてみてください。「知識不足」、「勘違い」、「時間配分（不足）」の三つです。

理由が分かれば、対策も変わります。知識不足なら、教科書や参考書で確認し直す。勘違いや読み違いなら、問題文に線を引く習慣をつける。時間配分（不足）なら、解く順番を見直す。同じ『バツ』でも、修正する方法はまるで違うのです。

特に「あと少しで正解だった」問題の対策は欠かせません。うっかりミスは知識ではなく習慣で減らせるので、見直しの手順を決めて、毎回同じ順で確認しましょう。

二学期の成績も、まだ動かせる

受験勉強に集中するあまり、学校のことが後回しになる人がいます。ところが二学期の定期テストや提出物の評価は、調査書に反映される場合が多いのです。扱いは学校や地域によって違うので、担任の先生に確認しておくと安心です。

入試本番の前に、確実に点を積み上げられる機会がまだ残っています。定期テストの範囲は狭く、準備した分だけ結果に出ます。また期限を守って出す提出物は、努力がいちばん確実に評価される場面です。

夜型から朝型への転換も意識して

入試は多くの場合午前中に始まります。ところが夜遅くまで勉強している人ほど、朝は頭がぼんやりしがちです。

しかし、確実に合格を手に入れるためには、朝の１時間目（１教科目）からクリアな頭で問題に挑まなくてはなりません。一般に、夜型から朝型への切り替えは数週間程度と言われています（個人差あり）。ですから、まだそれほど急ぐ必要はないかもしれませんが、夜が中心の人はどこかのタイミングで朝中心に切り替える必要があります。

これから冬にかけては風邪やインフルエンザも流行します。手洗いやうがい、食事、睡眠は、受験生にとって立派な「勉強道具」です。体調を保つことも合格のための大事な仕事です。

不安は「見える化」で今週の課題に変わる

入試が近づくと、不安が大きくなるのは自然なことです。不安の多くは、自分でもその実態が見えていないことが多いのです。

気になることがあれば、頭の中に置いておかず、紙に書き出してみましょう。「英語の長文が遅い」「理科の計算が苦手」といった形で。つまりこれは「不安の見える化」です。これにより不安は今週の課題に変わります。

今日の１問、今日の１ページが、冬休みの勉強の土台になります。12月の終わりに「あのとき始めておいてよかった」と言えるように。焦らず、でも止まらずに進んでください。

部活動 PICK UP!!

「日常の中の非日常を」科学の力で視界をアップデート

聖ヨゼフ学園高校 サイエンスクラブ

（２０２７年度より開智横浜国際高校）



「日常の中の非日常を味わう集団」がコンセプト。部員が興味を持った科学的な探究を行う活動をしています。毎年の学園祭で行う部員の趣向を凝らした実験ライブは来場者に大好評です。合宿ではこの部活だからこそできる活動を目指し、ＪＡＸＡのバックヤードツアーや東日本大震災の遺構を見学して自分たちの生き方についてのディスカッションを行うなど部のコンセプトを爆発させています。（文・写真：学校提供）

ys media
【よみうり進学メディア】
https://ysmedia.jp/

発　行／©(株)読売アルスＡ
東京都千代田区富士見 2-1-12
03-5226-9915

編集協力／(株)メディアバンクス
(社)かながわ民間教育協会

2026年 神奈川版 11月号

【特集】先輩に直撃インタビュー　2面
鎌倉国際文理高校　（鎌倉市）
法政大学第二高校　（川崎市中原区）
神奈川県公立、生徒募集人数発表
必見　神奈川公立入試問題（共通選抜）３面
その傾向と対策は？
神奈川県内私立入試の動向
受験生の疑問に答えるQ&A　4面
苦手科目と得意科目。どういうバランスで勉強すれば良いですか？

ys media
よみうり進学メディア
WEB版
高校レポート・入試情報等
受験に役立つ情報を掲載中!
毎日更新中!!
https://ysmedia.jp/







特集 先輩に直撃インタビュー

「高校ってどんな所？」
「先輩達はどんな毎日を送っているの？」
「高校の授業や勉強は？」などなど
気になるポイントを聞いてきました。

共学化から生まれる新たな刺激、チャレンジを応援し伸ばしていく

鎌倉国際文理高校（鎌倉市）

2026年度、鎌倉女子大学高等部から共学化し、校名を変更した『鎌倉国際文理高校』。1年生の和田純碧（すみあ）さん（横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校出身）と、小松美春さん（横浜市立根岸中学校出身）に話を聞いた。

「共学一期生として、どういう形で、どう人間関係を築けばいい学校が出来あがるか、考えて行動しています」と話す和田さんは入学後、学級委員に立候補。文化祭実行委員にも取り組んでいる。「リーダーシップを発揮し、人をまとめる役割は未知の領域でした。いろいろな個性がある中の意見の食い違いにもうまく対応し、まとめて、手探りで工夫しながら進めています」。

小松さんは今年度発足した『軽音楽同好会』に所属。「校内の有志たちが立ち上げた同好会です。全てが今年からのことなので、皆で話し合いながら、週に3回行う練習の内容も、文化祭で演奏する曲目も、皆で決めました。担当の先生は見守りながら、助言もくれます」。文化祭ではJ-POPを演奏する予定、先生もギターで参加するそうだ。「内部進学生、高校からの入学生、共学化により男女いろいろな人があつまり、いい化学反応が生まれます。自由な雰囲気の中で先生が後押ししてくれます」と小松さん。

一方、和田さんは弓道部に所属。「一期生としてこの学校の新しいことと伝統の、両方にチャレンジしようと思いました。弓道は指導者からのひとつのアドバイスでぐんと上達する。的中させるという目標はひとつでも、各々の鍛錬のやり方はひとつじゃないところがおもしろいと思います」と話す。

英語が好きな小松さん。「入学時は『英語で発表する』のハードルが高かったのですが、先生から『英語はコミュニケーション、楽しもう』と、生徒の立場に立ったアドバイスをもらいました。たくさん英会話をして、軽音では洋楽も楽しんで、もっと英語で話したい、いろんな国に行きたいと興味が広がりました」。和田さんは「先生方は一人ひとりを見ていて、それぞれに合った対応をしてくれます。誰ひとり埋もれることのない、良い校風が引き継がれていると思います」と話す。

最後に2人から受験生へ「ナーバスになる時期だと思いますが『なんのために勉強しているのか』を忘れないでほしいです。単純に〝いい高校〟だけを目標にするのではなく、視野を広く持って。いまの努力は将来ずっと活きていきます」とエールをもらった。





生徒が主役の学校生活 自分たちで考え、挑戦する

法政大学第二高校（川崎市中原区）

法政大学第二高校の魅力を生徒会の伊東崇志さん（横浜市立岡村中学校出身）と、石毛優花さん（埼玉大学教育学部附属中学校出身）に聞いた。

2人が挙げた魅力は、生徒が主体となって学校生活をつくり上げる校風だ。中学時代も生徒会に取り組んでいた石毛さんは、説明会で生徒の自主性を大切にする同校の姿勢に惹かれたという。現在は生徒会で全校行事の運営やクラスとの連携を担う。体育祭では競技やルール、当日の動線を生徒が考え、先生方と協議しながら決定。2・3年生の『クラスパフォーマンス』では曲の編集や振付をゼロからつくり、文化祭でもクラス企画の劇の脚本や背景制作を生徒主導で進める。「生徒が主となって、ゼロから形にできるところが一番の魅力です」と石毛さんは話す。

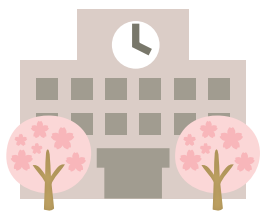
授業面でも主体的な学びが展開される。伊東さんが挙げるのは、活発なグループワークだ。1年次の『公共』では、SDGsの目標から環境省に関わるテーマを選び、メールでアポを取り実際に環境省を訪ねて取材を行った。放課後なども使い、班で協力して資料を完成・発表させた経験から、計画性や協調性を学んだという。

伊東さんが特に楽しいと話すのは体育の授業だ。実技テストは競技経験者でも満点が難しいほど本格的だが、「みんなが真剣に取り組む姿が楽しい」。同校には大学附属校ならではのゆとりのある環境を生かし、すべての教科に手を抜かず向き合う「全教科教育」の姿勢が浸透しており、行事やグループワーク、体育などあらゆる場面で真剣に挑む文化がある。

大規模校だからこその学びも大きい。石毛さんはクラスと生徒会をつなぐ役割を通じ、相手に応じた伝え方の工夫を深めた。1学年約500人の多様な価値観に触れる中で「異なる意見を尊重し、多角的に物事を見る力が身につきました」と成長を実感している。将来はテレビ業界を見据えメディア分野の学びを目指す石毛さんと、法曹界に関心を持つ伊東さん。共に明確な目標を描いている。

最後に中学生へのメッセージを聞いた。石毛さんは「好きなことを伸ばせる学校を目指し、実際に足を運んで自分に合う場所を選んでください。大変な時は休みつつ、後悔のないよう準備してほしいです」。伊東さんは「学力だけでなく、入学後に楽しく過ごしている姿を想像してみてください。自分にとって充実した学校生活を送れる場所を見つけてほしいです」とエールを送った。





「2027年度（令和9年度）神奈川県公立高校生徒募集定員について」発表

全日制は1，550人減の3万8，558人募集

神奈川県教育委員会は10月27日、「令和9年度神奈川県公立高等学校生徒募集定員」を発表しました。全日制高校の募集定員は3万8，558人で、前年度に比べ1，550人減となりました。

設置区分ごとの内訳は、県立高校126校で3万5，231人（前年比1，550人減）、市立高校13校で3，327人（前年と同数）となっています。募集定員は、県内公立中学校の卒業予定者数や県立高校改革実施計画、各高校の施設の状況などを勘案して策定されます。令和9年3月の県内公立中学校卒業予定者数は6万4，781人で、前年実績（6万6，387人）より1，606人減少しています。全日制普通科などの高校ごとの増減状況については、掲載の表をご参照ください。

学級数の見直しと再編・統合校の動きに注目

今回の定員発表では、全日制全体で39学級減となりました。普通科（学年制）では34校で8学級増、40学級減となり、差し引き32学級減です。単位制普通科でも9校で14学級増、19学級減となり、差し引き5学級減となっています。

また、県立高校改革実施計画に基づき、令和9年度には旭高校と横浜旭陵高校の再編・統合による横浜旭高校、横浜桜陽高校と永谷高校の再編・統合による新校、藤沢清流高校と深沢高校の再編・統合による新校が設置されます。既存校の募集学級数にも増減があるため、志望校の募集定員を確認しておきましょう。

共通選抜の本番スケジュールと出願手続き

今後の公立入試日程は、インターネット出願による共通選抜の志願情報申請が令和9年1月25日から29日まで行われます。中学校長の承認期間は2月1日までです。志願変更情報の申請期間は2月4日から8日までで、中学校長の承認は9日までとなっています。

学力検査は2月16日（火）に5教科で実施されます。特色検査および面接は2月16日から18日までの間に各高校が指定する期日に行われます（連携型中高一貫教育校連携募集は2月17日のみ、インクルーシブ教育実践推進校特別募集は2月17日または18日に実施）。追検査は2月22日、合格者発表は2月26日の予定です。

募集枠と志願動向を確認し、計画的な受検準備を

募集定員は1，550人減となりますが、県内公立中学校の卒業予定者数も1，606人減少しています。県全体の倍率への影響は、今後の志願動向を見極める必要があります。一方、学校ごとに募集定員の増減は異なるため、志望校の募集枠や志願状況を確認しながら、入試本番の学力検査や特色検査に向けて計画的に準備を進めましょう。

令和9年度　全日制普通科高校　学級増減対象校

普通科

学校名	増減
県立横浜立野	△1
県立旭	△8
県立横浜旭	＋8
県立釜利谷	△1
県立港北	△1
県立新羽	△1
県立霧が丘	△1
県立市ケ尾	△1
県立川和	△1
県立荏田	△1
県立舞岡	△1
県立松陽	△1
県立川崎北	△1
県立生田	△1
県立百合丘	△1
県立菅	△1
県立橋本	△1

学校名	増減
県立相模田名	△1
県立上鶴間	△1
県立追浜	△1
県立鎌倉	△1
県立大船	△1
県立藤沢西	△1
県立西湘	△1
県立茅ケ崎	△1
県立鶴嶺	△1
県立秦野曽屋	△1
県立伊志田	△1
県立海老名	△1
県立座間	△1
県立綾瀬	△1
県立綾瀬西	△1
県立寒川	△1
県立二宮	△1

計（34校 8増40減）△32

令和9年度　全日制単位制普通科・総合学科高校　学級増減対象校

単位制普通科

学校名	増減
県立横浜清陵	△1
県立横浜桜陽	△7
県立戸塚南	＋7
県立大師	△1
県立相模原城山	△1
県立平塚湘風	△1
県立藤沢清流	△7
県立藤沢東	＋7
県立三浦初声	△1

計（9校 14増19減）△5

総合学科

学校名	増減
県立鶴見総合	△1
県立座間総合	△1

計（2校 2減）　△2

全体合計（増減学級数合計）
45校 22増61減（△39）

必見!! 神奈川公立入試問題（共通選抜） その傾向と対策は？

全体傾向・英語・数学・国語は、前号（10月号）に掲載しました。「よみうり進学メディアWEB版」で紙面PDFとWEB記事の閲覧ができます。右の二次元コードから、または「よみうり進学メディア」で検索してください。

社会

基礎知識の定着とともに、資料と知識を結びつける考察力が鍵

大問数・小問数は例年どおり大問7、小問34で変化はありませんでした。

問1 地理（世界）
問2 地理（日本）
問3 歴史（古代から近代の日本と世界）
問4 歴史（近代～現代の日本と世界）
問5 公民（経済）
問6 公民（政治）
大問7 三分野
地理・歴史・公民の3分野からバランスよく出題されており、複数の分野にまたがる融合問題も出題されています。

合格者平均点は62・3点（追検査含む）で、前年（令和7年度）の57・9点から4・4点上昇しました。

全体として基本的な知識や資料を読み取る問題の正答率は高かったものの、いくつかの設問で差がつきました。特に正答率が低かったのは、問2（地理）イiiの神戸市の開発に関する問題（32・0%）や、問3（歴史）オの人々の移動の歴史に関する正誤判断問題（34・2%）でした。また、問1オの首相訪問国（45・5%）、問4オの歴史的調査（46・1%）、問7イのイギリスの三角貿易（47・2%）、問6オの政治参加・地域課題（48・7%）などでも苦戦が見られました。単なる用語や人名の暗記だけでは高得点は望めません。資料から読み取れる情報と既習の知識を関連付けて社会的事象を考察する力を養うことが重要です。

理科

基礎問題で確実に得点し、観察・実験のデータ分析力を磨く

構成は問1～問8の全8問（小問33）です。前半（問1～問4）は各分野の基礎知識を問う問題（計13題・36点）です。

問1 物理
問2 化学
問3 生物
問4 地学
後半（問5～問8）は実験・観察に基づく応用的な問題（計20題・64点）となっています。

問5 物理
問6 化学
問7 生物
問8 地学
合格者平均点は60・0点（追検査含む）で、前年の51・7点から8・3点と大幅に上昇しました。前半の基礎問題では、生物の数量関係の問題（89・9%）、物理のモノコードの弦の振動の問題（81・6%）など、比較的高い正答率の設問も見られますが、半数は40～50%の正答率にとどまっています。

後半の問5（物理・電熱線）や問6（化学・イオン）は着実に得点できていましたが、一方で問7（生物）の実験結果からの考察問題（41・4%）や、仮説を確かめるための実験計画の問題（47・2%）、問8（地学・太陽の観察）の自転周期を求める問題（26・9%、16・6%）などでは苦戦を強いられました。

実験や観察の手順や結果を理解するだけでなく、結果から得られたデータを分析・解釈し、科学的に探究・判断する力を高めておくことが必要です。

まとめ

覚えることは大事だが、入試で問われるのは思考力と判断力

各教科とも出題形式や内容は少しずつ変化していますが、全体としては基礎・基本的問題が多く出題されています。

単なる暗記にとどまらず、得られた情報や資料から論理的に思考し、適切に判断する力が合否を分けるポイントとなっています。

過去問学習や質の高い問題演習を通じて、知識の定着と実戦的な思考力・判断力をしっかりと磨いていきましょう。

2027年度（令和9年度） 神奈川県内私立入試の動向

「将来の自分にとって価値ある志望校選択を！」

将来の自分にとって価値ある志望校選択をするためには、その高校のことをよく知る必要があります。しかし私立高校はコース改編や選抜方法を変更することが多いので注意が必要です。ここでは来春の入試の変更点について見ていくことにしましょう。

まず大きな変更として、聖ヨゼフ学園の運営法人が開智学園に変わります。それに伴い学校名も開智横浜国際となります。これまでの学校の伝統や校風、特徴などが大幅に変わることになるでしょう。また、鎌倉市の清泉女学院が高校募集を開始します。募集人員は推薦と一般合わせて15人と小規模で、一般入試でも学力検査を行わず、推薦と同様作文と面接を実施します。また2030年度より募集停止が決まっている函嶺白百合学園も書類選考とオープン入試を導入したり、欠席日数の条件や出願基準を緩和するなど、これまでの募集要項を大幅に変更します。日本女子大学附属は併願入試を9科42の基準で導入します。このほか、推薦・専願入試でも出願基準が明記されています。

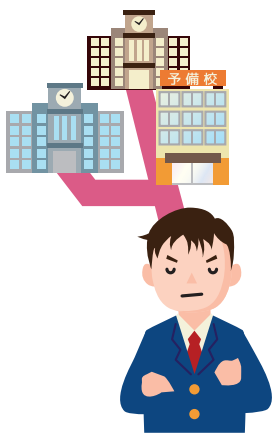
コース変更では横浜学園がクリエイティブコースを停止しアカデミーのみの募集とします。また湘南学院はもっともハイレベルのサイエンスコースを募集停止し3コース制になります。2年次にエクセレンスコースを新設して進級時に全コースから選抜され編成するスタイルに変わります。

今春の私立高入試では、就学支援金の年収制限の撤廃と支給額の増額によって私立志向が高まり、推薦入試の応募者が増加するという特徴がありました。このような動きに合わせるように私立高校では出願基準のハードルを上げる学校が増えています。横浜、横浜創英、横浜商科大学、横浜創学館、横浜清風、横浜隼人、三浦学院、藤嶺学園藤沢、日本大学藤沢、藤沢翔陵、聖セシリアなどで、これらの学校を志望する際には中学校の先生とよく相談しておく必要があります。

一方、東海大学付属相模や聖園女学院、武相、捜真女学校、向上など緩和する学校もあります。

欠席日数の条件を変更する学校が目立ったのも、来春の入試の特徴のひとつです。全国的に公立高入試では調査書から欠席日数の記載欄を削除する動きがありますが、私立高入試でも欠席日数の条件を緩和するところが増えています。英理女子学院は3年間の欠席日数から3年次に変更し、1、2年次は問わなくなりました。桐蔭学園や横浜翠陵も同様です。大西学園は3年次7日以内を10日以内に緩和しています。

推薦入試や併願入試には内申による出願基準を設定している学校がほとんどです。また英語検定や漢字検定などの資格や部活動の実績、生徒会や委員会活動などを評価して内申に加点する学校もあります。併願・単願ドットコムで検索すると自分にピッタリ合った学校が見つかるかもしれません。ぜひ試してみてください。



監修：高校入試活性化委員会（株式会社リヴィジョン）

高校入試シミュレーションサイト
最新の成績を入力することで、自分に合った学校を検索できます。
迷える受験生の学校探しにも、入試直前の学校選びにも役立つサイトです！
第一志望を見つけるならコチラ 単願ドットコム
併願校を見つけるならコチラ 併願ドットコム
Powered by 株式会社リヴィジョン

楽しくなければ学校じゃない！
好きなことをやり抜くからこそやる気がわく。自信がつく。
週5日通学
総合進学コース
インターナショナルコース
eスポーツコース
プログラミングコース
上記の他、週1～5日のオンライン＋通学のコースもあります。
学校説明会
ご予約はホームページから受け付けております。※定員制
11月29日(日)・12月5日(土)
1月16日(土)・ 2月6日(土)
説明会内容
学校紹介、入試説明、在校生による学校生活の紹介、個別相談
夢・挑戦・達成
学校法人 創志学園 クラーク記念国際高等学校
〈横浜キャンパス〉横浜市西区桜木町4-17-1 TEL：045-224-8501

受験生の疑問に答える

専門家の先生がみなさんの疑問・不安にズバリ回答!!

キューアンドエー Q&A

Q 志望校の過去問題を解いてみたのですが、合格点に全然届きません。この時期に点が取れないということは、あきらめて志望校を変えたほうがいいのでしょうか。

A 過去問を解いて合格点に届かないと、不安になるのは当然です。しかしこの時期の点数だけを見て、すぐに志望校を変える必要はありません。一般に、志望校のランクを上げる決断は早いほうがよいですが、下げる決断はギリギリまで引き延ばしても大丈夫です。

質問の様子では、最近になって過去問を始めたようですね。最初から高得点を取れるのは、かなり実力のある人です。多くの受験生は、何年分も解き、さらに同じ問題を繰り返すうちに、その学校の出題傾向や問題の「クセ」に慣れ、少しずつ点数を伸ばしていきます。

過去問は、自分の力を測るためだけに使うものではありません。「どんな問題がよく出るのか」「時間配分はどうするか」「自分はどこで失点しやすいのか」を知るための教材でもあります。そこが分かれば、これから何を重点的に勉強すればよいかも見えてきます。

また同じ学校の問題を何度も解いておくと、本番でも「まったく初めての問題に挑む」という感覚が薄れます。形式や流れに慣れていれば、落ち着いて取り組めるはずです。

今は、合格点に届かなかったことを悲観するより、「何点足りなかったのか」「どの分野で落としたのか」を確認してください。その差を埋めるのが、これからの目標です。志望校を下げる判断は、もう少し先でも間に合います。今は過去問を味方につける時期です。間違えた問題は解説を読み、後でもう一度解いてください。できなかった問題ができれば、それが実力の伸びです。

Q 面接試験で、準備してないことを聞かれたら、答えられないと思います。準備していないことを聞かれたら、どう答えるのが正解ですか?

A まず、想定される質問には自信を持って答えられるよう、しっかり準備して本番に臨みましょう。高校入試の面接で特に重要なのは、第一に「なぜこの学校を志望したのか」という志望動機、第二に「中学校時代に力を入れてきたこと」、第三に「高校に入ってから何を頑張りたいか」です。学校によって多少の違いはあっても、この三つは高校入試の面接における三大質問と考えてよいでしょう。

この三つについては、面接官も「当然、答えを準備しているはず」と考えて質問してきます。ですから、ここで答えに詰まると、「本当にこの学校に入りたいのかな」と真剣さを疑われるかもしれません。まずは、この三大質問だけは自分の言葉でしっかり答えられるようにしておきましょう。

そもそも面接は受験生を困らせるために行うものではありません。わざと答えにくい質問をして失敗させようとしているわけではないので、必要以上に心配しなくて大丈夫です。

それでも、予想していなかった質問をされて、すぐに答えられないことはあるでしょう。そのときは、無理に立派な答えを作ろうとしなくて構いません。「よく分かりません」「そこまでは考えたことがありません」と正直に答えてもよいのです。

大切なのは、暗記した答えを完璧に再生することではなく、質問をよく聞き、自分の考えを自分の言葉で伝えることです。準備できることは十分に準備し、想定外の質問には落ち着いて、正直に答える。それが面接でいちばん大切な姿勢です。

Q 第一志望の高校の倍率が、去年より上がっていてすごくあせっています。同じくらいの学力で倍率が低い学校に変えたほうが、やっぱり受かりやすいでしょうか?

A 非常に判断が難しい問題です。倍率だけを見れば、一般には倍率が低い学校のほうが合格しやすいと言えます。ただし、それだけで志望校を変えるのはおすすめできません。倍率は「何人受けて何人合格するか」という数字であって、受験者一人ひとりの学力までは表していないからです。

また、倍率は固定されたものではありません。たとえば第一志望のA高校の倍率が高いので、倍率の低いB高校に志望変更したとします。しかし、あなたと同じように考える受験生が大勢いたらどうなるでしょう。今度はB高校の倍率が上がり、反対にA高校は下がる可能性もあります。このように倍率は、自分ひとりの動きではなく、多くの受験生の動きによって変化します。

ですから、今発表されている倍率だけを見て、慌てて判断するのは危険です。去年より高いからといって、そのまま最後まで高いとも限りません。

大切なのは、倍率よりも自分が合格に必要な学力にどれだけ近づいているかです。模試の結果、過去問の得点、調査書などを合わせて考えましょう。

もちろん、同じくらい行きたい高校が2校あり、学力的にも大きな差がないなら、倍率を参考にするのはひとつの方法です。ただ、第一志望への気持ちが強いのに「倍率が高いから」という理由だけで変えると、後悔することもあります。

倍率は大切な情報ですが、最後の決め手ではありません。数字に振り回されず「その学校に行きたい気持ち」と「今の自分の力」の両方を見て判断してください。

Q 苦手な英語を克服したくて時間をかけていると、得意な数学の過去問を解く時間がなくなって不安になります。苦手対策と得意教科はどういうバランスで勉強すればいいですか?

A はい、これはよくある悩みです。時間という限られた資源を、苦手教科と得意教科にどう配分するかは、多くの受験生が迷うところです。

苦手な英語に時間をかければ英語が伸び、合計点が上がるかもしれません。しかし、その分だけ得意な数学の勉強時間が減り、得点源が弱くなる可能性もあります。反対に数学ばかりやれば、英語がこれまで以上に全体の足を引っ張るかもしれません。

そこで、いったん「何時間やるか」という考えから離れてみましょう。

「英単語を20個覚える」「英文問題を10題解く」「数学の過去問を大問2題やる」というように、時間ではなく量や内容で目標を決める方法です。これなら一方の教科に時間を取られ過ぎるのを防ぎやすくなりますし、「今日はここまでできた」という達成感も得やすくなるでしょう。

また、教科ごとに役割を決めるのもひとつの方法です。得意な数学は「積極的な攻撃」と考え、過去問や応用問題で高得点を狙う。一方、苦手な英語は「堅実な守り」と考え、基礎・基本を固めて大きな失点を防ぐのです。

もちろん、英語をあきらめるという意味ではありません。苦手教科ではまず最低限取るべき点を確保し、得意教科ではさらに上を目指すという考え方です。

受験は合計点で決まることが多いので、すべての教科を同じように勉強する必要はありません。時間、量、内容、教科の役割と、いくつかの見方を組み合わせることで、自分に合った勉強のバランスを発見してください。

Q 中3の保護者です。受験が近づき、我が子のメンタルの弱さや精神的な波が目立つようになり心配です。家庭でできるサポートや声かけを教えてください。

A 個人差はありますがここから先、受験生の精神状態は多かれ少なかれ不安定になります。「うちの子だけメンタルが弱いのでは」と心配し過ぎないでください。

ある時は強がってみせ、ある時は弱音を吐く。突然「受験なんてどうでもいい」「高校なんてどこでもいい」と投げやりになることもあるでしょう。でも、そういう姿を見せられるのは、家庭だからこそではないでしょうか。

学校では先生や友達の前でそこまで本音を出せない子も多いはずです。中学3年生ならそのくらいの分別はあります。だから家では、少しくらい弱音を吐いても、わがままを言っても、大目に見てあげてください。

保護者としては、何か励ましの言葉をかけてあげたいと思うでしょう。その気持ちは大切です。ただ、今の時期は「何を言うか」以上に「どう聞くか」が重要です。先生や友達には言えず、心の中にため込んでいる不安や焦りを、まずは聞いてあげましょう。

すぐに助言したり、「そんなこと気にしなくていい」「もっと頑張りなさい」と結論を急いだりしなくても構いません。「そう思っているんだね」「それは不安だよね」と受け止めてもらえるだけで、気持ちが軽くなることもあります。

家庭は、受験生にとって最後に戻れる場所です。学校や塾で頑張っている分、家では少し力を抜ける。その安心感が次の日に前を向く力につながります。

ただし、普段と明らかに違う様子が長く続く場合は、家庭だけで抱え込まず、学校の先生や専門家に相談してください。



臨海の定期テスト対策 中1~高2

テストと内申どちらも点数アップ!! わかるまでとことん指導します!!

万全の対策期間	全範囲の総復習	授業時間の拡大
定期テストの約2週間前から	全教科のテスト範囲をおさらい	土曜日・日曜日もプラス
各学校のテスト範囲に合わせたカリキュラムに切り替えて授業を実施します。	できる十分な期間がありますので、抜け漏れのない復習ができます。	して授業を実施します。なお、追加費用は一切かかりません。
クラスの再編成	**自習スペースの大開放**	**出題傾向と対策**
学校別・単元別のテスト対策	教室を自習スペースとして開放	テストで差がつく問題を厳選
を行うため、学校のテスト範囲に合わせたクラスに再編成して授業を実施します。	していますので、思う存分勉強をしてください。 ※使用可能な時間帯は教室によって異なります。	するために、生徒からの聞き取り調査を通じて過去の出題傾向を分析しています。

SINCE 1974 52nd RINKAI★SEMINAR

臨海セミナー ☎045-441-4119

11/23(月・祝)・12/5(土) ※中1・中2は12/5(土)のみ実施します。

自分の立ち位置を確かめよう!!

中1~中3 神奈川統一模試